

令和7年度 シラバス

愛媛県宇和島東高等学校津島分校

教科	数学	科目	数学B	単位数	2	学年	2年	類型	カレッジコース
教科書	新 高校の数学B(数研出版)			副教材	新 高校の数学B 対応 ポイントノート数学B(数研出版)				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点
				知	思	主	
1 学 期	4	第1章 数列	第1節 数列とその和	1. 数列	◎	○	学習のねらい 1学期は、数列の表し方を学習します。隣り合う項の差や比が一定である数列について考え、その和を求める公式を導きます。また、和の記号Σについて学習します。また、隣り合う2項の差からなる数列や、2項間の関係からもの数列の一般項を求める方法、自然数に関する命題の証明法について学習します。 2学期は数学Aの内容をさらに発展させ、抽象化した確率分布を学習します。この内容は実生活にも密接に関わっている内容である。 3学期は標本平均から母平均を推定することおよび仮説検定を最終目標として学習を進める統計的な推測を学習します。 学習の目標 「数列」では、簡単な数列とその和、漸化式と数学的帰納法について学習します。「統計的な推測」では抽象化した内容であるが、実生活にも密接に関わっている内容について学習します。学習を通じて物事を数学的に考察したり、得た知識や技能を活用しようとする態度を身に付けます。 評価の観点 知識・技能 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 思考・判断・表現 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し総合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。 備考
				2. 等差数列	○	◎	
				中間考査	◎	◎	
	5			3. 等比数列	◎	○	
				期末考査	◎	◎	
				7. 和の記号Σ	◎	○	
	6			4. 複利法と等比数列		◎	○
						◎	◎
						◎	◎
	7			5. 和の記号Σ		◎	○
					◎	○	
2 学 期	8			5. 和の記号Σ		○	◎
					○	◎	
				6. 階差数列		○	◎
	9					◎	○
				中間考査	◎	◎	
				第2節 漸化式と数学的帰納法	◎	○	
	10			1. 漸化式と一般項			
						◎	○
						○	◎
	11			2. 数学的帰納法	◎	○	
						○	◎
						○	◎
	12	第2章 統計的な推測	第1節 確率分布	1. 確率	◎	○	
				期末考査	◎	◎	
				1. 確率	○		◎
3 学 期	1			2. 確率変数と確率分布		◎	○
				3. 二項分布	◎		○
					○		◎
	2			4. 確率密度関数	◎	○	
					◎	○	
					◎	○	
	3			5. 正規分布		◎	○
				学年末考査	◎	◎	
				6. 二項分布と正規分布		○	◎
						◎	○
						◎	○

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

【数学BのPoint】

- 数学Bの「数列」は初めて学習する内容ばかりなので、新鮮な気持ちで学べと思います。
- 「数列」は、規則に基づいて並んだ数について考えます。
 - ① 常に「規則性」を意識して学習しましょう。
 - ② 実際に書き並べる作業によって容易に問題が解決することもあります。
- 「統計的な推測」は、数学Aの内容を復習しながら学習していきます。
- 1時間の授業の流れは、次のようになります。
 - ① 公式・定理を学びます。 ② 例題の解説を聞きます。 ③ 練習問題を解きます。
- 練習問題を必ず自分で解く、これが基本です。
- 公式や定理を用いて問題を解く、これが基本です。
- 教科書・ノートで確認しやすくしておくことが大切です。
- 問題を解決する「手順を学ぶ」という意識が、複雑な解法を理解する近道になります。
- ノートは、口頭で示された重要ポイントも記しておく、と、復習する時に役立ちます。

【家庭学習】

- 宿題は授業の復習をするためにもその日のうちに済ませましょう。
- 1年次より学習内容の量も増え難易度が上がるため、家庭学習の時間をどれだけ確保するかが成功のカギとなります。
- 前日に教科書やノートに目を通して復習しておく、と、理解する度合いが違ってきます。公式・定理を確認するだけでも違ってきます。
- 教科書やノートを見ながらでもよいので、自分で問題を解くようにしましょう。

【定期考査】

- 公式・定理を覚えることが重要です。もちろん使い方もきちんと覚えましょう。
- 小テストの内容が考査の基本となりますので、よく復習をしておきましょう。
- より多くの問題を解くことが高得点への近道です。問題は自分できちんと解くことが大切です。
- 俗に言う一夜漬けでは目標点は望めません。日々、コツコツと学習しましょう。

◆評価の方法、規準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況および学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況において、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点別評価を行います。	
評価の規準	1 学 期	中間考査、期末考査（「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点から評価します。） 出席状況及び学習意欲（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。） ノートの整理状況（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。） 課題提出状況等（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。）
	2 学 期	中間考査、期末考査（「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点から評価します。） 出席状況及び学習意欲（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。） ノートの整理状況（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。） 課題提出状況等（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。）
	3 学 期	学年末考査（「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点から評価します。） 出席状況及び学習意欲（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。） ノートの整理状況（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。） 課題提出状況等（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。）
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均